

## 原子力規制庁臨時ブリーフィング

- 日時：平成30年9月6日（木）10:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊一寛長官官房総務課長、古金谷敏之安全規制管理官、  
武山松次監視情報課長、村田真一事故対処室長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、お待たせいたしました。本日、北海道で発生いたしました地震による影響についてのブリーフィングのほうを始めさせていただきます。

今日の進め方でございます。まず、資料でございますが、本日発生した地震による影響についてという1枚紙、それから、北海道地震によるモニタリングポスト等の被害状況、2種類の資料をお配りしております。足りない方がいらっしゃいましたら、お知らせください。

また、ウェブで御覧になられている方については、準備ができ次第、資料のほうはアップしますので、しばらくお待ちください。

それでは、本日でございますけれども、まずは総務課長の大熊のほうから概略を御説明いたしまして、質疑応答をお受けしたいと思っております。質疑応答の担当につきましては、実用炉監視担当の安全規制管理官の古金谷、それから、監視情報課長の武山、事故対処室長の村田でございます。よろしく願いいたします。

○大熊総務課長 それでは、総務課長の大熊でございます。座って御説明させていただきます。よろしく願いいたします。

今、広報室長のほうからお話ございましたとおり、本日未明に北海道胆振地方で発生をいたしました地震による影響につきまして、これまで緊急情報メールですとかホームページで逐次情報をお知らせしているところでございますけれども、そうした情報を整理いたしましたので御説明させていただきます。

お手元にお配りしている資料に沿って、おおむねその内容ということになりますが、御説明をさせていただきます。

冒頭に地震発生時刻とございます。御案内のとおりですけれども、本日3時8分に地震が発生いたしました。北海道安平町で震度6強が観測されたという情報でございます。

これに伴う原子力関係施設への影響でございます。北海道電力の泊発電所でございますが、1号機から3号機、こちらは全て停止中ということでございまして、燃料も原子炉から取り出されているという状況でございます。こちらにおきまして、3時8分に地震が発生いたしまして、泊村では震度2が観測をされたところでございます。

原子炉における最大地震加速度ですが、2号機では7ガル、1号機、3号機では6ガルが観

測をさせていただきます。

3時25分に外部電源が、3系統6回線が失われる。喪失するという状況になってございます。北海道電力の全体的な停電に伴うものでございます。

これに対応いたしまして、非常用ディーゼル発電機が6台起動いたしまして、起動しております。各号機ごとに2台設置されており、全てが起動しているということでございます。これによりまして、使用済み燃料プールの冷却が正常に実施をされているという状況でございます。

なお、記載はございませんが、プールの温度についての情報も入ってございます。9時45分現在ですけれども、1号機の燃料プールは23度、2号機の燃料プールは24度、3号機は22度という情報が入ってきてございます。

この非常用ディーゼル発電機の燃料は7日間確保されているという状況でございます。燃料油タンク周辺の点検も行われておりますが、異常は確認されていないということでございます。

なお、発電所内のモニタリングポストあるいは主排気筒モニタについては、データ変化なしという情報が入っているという状況でございます。

その後、泊幹線の一部が一時復旧をしたのがまた失われたという状況がございまして、9時45分現在、外部電源の復旧の見通しに関する情報はまだ入っていないという状況でございます。

泊発電所につきましては以上のような状況でございますので、安全性という観点で問題があるという状況にはない。問題ない状況であると認識してございますが、引き続き状況を注視していくということとしていただいております。

なお、その下に東北地方の施設についての情報も一応記載してございます。東北電力東通原子力発電所1号機、こちらは停止中でございます。震度は東通村で震度4がございましたが、プラント状態等に異常はないということを確認してございます。また、日本原燃六ヶ所再処理施設。こちらは六ヶ所村で震度3が観測されておりますが、プラント状況等々異常なしということを確認していただいております。

なお、このほかに原子力施設そのものではございませんが、モニタリングポストについて、地震に伴う被害の状況の情報が入ってきております。こちらについても御報告を申し上げます。別紙のほうになります。UPZ内には固定局が21局、電子線量計が60局、合計で81局あるという状況でございますが、固定局のうち12局が停電のため停止しているという状況でございます。そのほかについては稼働しているということでございます。

また、UPZの外には水準局10局がございまして、うち9局が停止しているということが確認されてございまして、原因について、現在調査を行っているところということでございます。こちらの被害状況についても、速報でございまして、取り急ぎ御報告をさせていただきます。

冒頭、私からの説明は以上とさせていただきます。

## <質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

タケオカさんからお願いします。

○記者 共同通信のタケオカと申します。

モニタリングポストで教えていただきたいのですが、固定局、電子線量計、水準局と3種類あるのですが、これはそれぞれメカニズムとか目的とかは違うのでしょうか。

○武山監視情報課長 まず、固定局は平常時に監視をするもの。あとは緊急時にも使う。こういうものでございますというものが1つ。いわゆる低い線量も高い線量も測れるということになっています。

それから、電子線量計ですね。こちらは緊急時のためにつけているというものでございまして、それに特化しているものということで、お考えいただければと思います。

それから、水準局。これは各都道府県にもあまねくついているものなのですけれども、これは各都道府県のレベルを比較するためにつけているというものでございまして、主に低線量のを測る。こういうものでございます。

○記者 放射線量を測定するもの。空間放射線量を測定するものということによろしいですか。

○武山監視情報課長 そのとおりでございます。

○記者 UPZ内の固定局の12局。これは無停電電源装置はなかったのでしょうか。

○武山監視情報課長 非常用発電機はついているのですけれども、何らかの理由で今、動いていないということで、多分、停電になって停止しているということが疑われます。

○記者 電子線量計の60局は稼働しているけれども伝送遅れというのは、これはどういうことなのでしょうか。

○武山監視情報課長 電子線量計は、実は、これは今、緊急事態ではないので、一応見ることができのですけれども、時間が、少しタイムラグがあって来る形になっています。例えば20分遅れとか、10分とか20分とか、そういう形で来ています。具体的には電子線量計、そうですね。大体10分置きに今は来ているのですけれども、例えば緊急事態のときにはもうちょっと、2分置きぐらいにやったりするので、その設定が10分置きなので、その設定が実は各電子線量計によって初期値がちょっと違っているんで、少しタイム遅れが発生しているということでございます。

○記者 電子線量計は、いわゆるポケット線量計とはまた違うのですか。この60局というのは。

○武山監視情報課長 違います。電子式の、おっしゃるとおり、個人線量計と同じようなものなのですけれども、それをちゃんとモニタリングポスト用に校正をしたものがあり

ます。

- 記者 そうすると、泊原発周辺に何機のモニタリングポストがあって、そのうち何機が停止しているという言い方をする場合は、この60も母数に入るのですか。
- 武山監視情報課長 母数というのは、停止しているということですね。
- 記者 停止しているのは、この12と9が停止ですね。
- 武山監視情報課長 12と9が停止ですね。60は、これは停止はしていません。データは来ているので。
- 記者 ですからそれも、あ、そういうことです。
- 武山監視情報課長 81分の12かということですね。UPZ内という意味では81分の12ということになりますね。
- 記者 UPZ外も合わせると、81分の21になるわけですか。
- 武山監視情報課長 91分の。
- 記者 そうか、失礼しました。
- 武山監視情報課長 UPZ内は81分の12だし、外になると10分の9という形です。
- 記者 なるほど。最後にしますけれども、UPZの中、外を合わせると、91分の21が停止ですか。
- 武山監視情報課長 そうですね。両方足すとそうなります。
- 記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほか、御質問のある方はいらっしゃいますか。  
シゲタさん。

○記者 NHKのシゲタです。  
この外部電源喪失というのは、いつぶりになるのかを教えてください。

○古金谷安全規制管理官 それは泊でということですか。

○記者 いえ、全国です。

○古金谷安全規制管理官 いつぶり。済みません。ちょっと今、直ちに情報はないですね。ただ、再稼働をしてから外電喪失という事象は恐らく、今、再稼働をしているところが幾つかあると思うのですけれども、そこで起きたというのはないと記憶していますし、再稼働をしていないところも、どうだったかな。ちょっと記憶の限りでは、最近あったという記憶はないのですけれども、済みません。いつぶりというところと言うと、正確な数字は今、申し上げられる状況ではありません。

○記者 あとは不勉強で申しわけないのですけれども、こういった事態を踏まえた外部電源喪失というのは、審査の中で見られる類いのものなのかどうかをちょっと確認させてください。

○古金谷安全規制管理官 こういったというのは。

○記者 つまり、需要と供給のバランスが崩れて電気が送られなくなって、外部電源を喪

失するというようなパターンの想定は、新規制基準のもとで見られる類いなのかどうかということを確認させていただきたいのです。

- 古金谷安全規制管理官 具体的な外部電源喪失の過程としてどういうことを置いているかという御質問かと思うのですけれども、恐らく細かな外部電源が喪失するこういう場合、こういう場合というものを置いているということではないと思います。ここにある6回線が全てなくなったということから審査としては出発していて、それでどれぐらいの非常用発電機が必要かとか、そういうところの審査で確認をしているということです。
- 記者 済みません。最後に、この件をめぐって、北海道電力に何か指示なりこういうことをしなさいというようなことを伝えているかどうかを確認させてください。
- 古金谷安全規制管理官 我々として、特に今、指示をしているかと言われると、そういうことは一切しておりません。当然我々は状況を確認していますので、逐次北海道電力から情報提供を受けておりますし、現場には検査官が行っておりますので、彼らからも情報提供を受けておりますので、そういったところで状況は確認しておりますけれども、何かこちらから指示ということはしておりません。

○司会 カンダさん、挙げていましたか。では、カンダさんから。

○記者 時事通信のカンダです。

モニタリングポストの関係なのですけれども、これは停電で停止するというのは想定されているのですか。一応、でも、全部。

- 武山監視情報課長 一応これは、非常用電源はついているのですけれども、起動が手動だったりするところがあって、スイッチを入れなければいけないとかいうところがあって、要するに、自動になっていなかったりするみたいです。ちょっと詳しいのは聞いておりますけれども、どうもそういうことだということでもあります。
- 記者 それは何か整備計画があって、例えば止まってしまっただけでわざわざ起こしに行くというのも、いろいろ面倒だなとか、こういう緊急事態のときには大変だと思うのですけれども、そういう順次置きかえみたいなことを考えていらっしゃるのですか。
- 武山監視情報課長 そうですね。今、一応電源はきちんと確保するということが大事で、多重化とかも我々は求めているので、そういう形で、これは道のほうでつけていただくのですけれども、順次いろいろこういう多重化とかは図っているところです。
- 記者 今、とまっているものは、非常用の電源はあるのだけれども手動で切りかえなければいけないので、現時点で止まっているという可能性が高いということですか。
- 武山監視情報課長 その可能性が高いと思っています。
- 記者 UPZ外については、原因については調査中ということではあるのですが、やはりこれは停電に起因するものと考えたほうがいいのですか。
- 武山監視情報課長 これはそうだと思いますね。
- 記者 これは機械としては、水準局も固定局も同じ機械ですか。

○武山監視情報課長 固定局のほうは低いところから高いところまで測れるのですけれども、水準局は基本的に低いところのレベルだけを測るというものです。ちょっと検出器が違うということですね。

○記者 分かりました。

○司会 それでは、真ん中の列の一番前の方。

○記者 北海道新聞のクドウと申します。

冒頭、泊の1号機から3号機のプールの温度について御紹介があったと思うのですけれども、二十数度ということで、これは通常の温度の範囲内という理解でよろしいでしょうか。

○村田事故対処室長 7時ごろからのデータも聞いておりますけれども、大体20から23度ぐらいの形でありますので、定常これぐらいの水温だということで考えています。

○記者 分かりました。もう一点、6時過ぎに1号線が復旧して、またすぐに喪失していると思うのですが、この理由については何か報告は入っていますでしょうか。

○村田事故対処室長 詳しい情報が入っていないのですけれども、我々が当時聞いている段階では、この時間帯ぐらいにどうも余震が起こっているようだということですので、その影響ではないかとは聞いていますが、ちょっと具体的にどこが駄目だったのかとか、そういう詳しいところはまだ把握していません。

○司会 それでは、ナカムラさん。

○記者 日本テレビのナカムラと申します。

モニタリングポストは、これは全部原子力規制庁がつけているモニタリングポストなのですか。

○武山監視情報課長 これは道のほうでつけているものが、このUPZ内というものは、まず、北海道が交付金でもってつけているというものですし、水準局というのは、これは規制庁のほうでつけているものです。

○記者 よく規制庁のホームページで一覧されるものは、あれは全部規制庁のものだと思っていたのですが。

○武山監視情報課長 あれは規制庁のものも一部ありますけれども、先ほど言った水準局というのは規制庁なのですが、そうではないものは道のもので、それもホームページで全部、あるのは見えるようにはしています。

○記者 あと、調べれば分かるのですけれども、教えていただきたいのですが、ガルがそれぞれ6とか7で、それぞれの原発のSsははるかに高いと思うのですが、一応それぞれ幾らになるのですか。

○司会 済みません。数字を持ち合わせておりませんので、後でお知らせいたします。

○記者 分かりました。あとは一応こういう場合は、ERSSというので、規制庁は泊の状況、

燃料プールの状況を常にどの程度見えているのかということをお教えいただけますか。

○村田事故対処室長 ERSSのほうで確認はしてございますけれども、現在、プールの温度はERSSのデータ伝送に入っていない状況ですので、我々としては、ERSSというよりは、直接電力、今回ですと北海道電力ですが、そことコンタクトをして無事に確認しているという状況です。

○記者 外部電源の有無というのはERSS上表記されているのでしょうか。

○村田事故対処室長 そこは外部電源の有無は表示をしていますし、あとはディーゼル発電機の運転状況というか、動いている、動いていないという、その辺のところも見られるようになっていきます。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかにございますでしょうか。

カワダさん。

○記者 朝日新聞のカワダと申します。

非常用DGの起動時間というのは何時何分なのですか。

○村田事故対処室長 基本的に外部電源が喪失したらすぐに起動するので、外部電源喪失が3時25分ですので、そこから間をあかずに起動していると理解しています。

○記者 分かりました。あとはモニタリングポストの、これはUPZで、PAZだと何局というのは分かるのですか。

○武山監視情報課長 基本、PAZは発電所のほうのポストになるので、厳密にこのUPZの中のPAZがどのくらいかは、済みません、まだ手持ちがないので分からないのですが、基本的には、PAZの中は普通は置かないのですけれども。

○記者 あと、非常用ディーゼルの燃料というのは7日間ということですが、実質どのくらいもつとかというのは、10日間と電力のほうは言っているようなのですが、どのくらいに。

○村田事故対処室長 7日というのは、通常の運転中のものを想定したような形になりますので、今回、運転停止をしている状態ですので、発電機の負荷が減っていますので、そういう意味で、7日間以上はもつとは思っていますが、北海道電力が10日と言っている根拠は私も把握はしていませんけれども、いずれにしても、7日以上はもつと考えています。

それから、仮にディーゼル発電機が止まった場合ということですが、発電所の中に、それとは別に非常用の発電機を有していますので、仮にディーゼル発電機が止まってしまっても、そちらのほうで電源の供給はできますので、プールの冷却とか、そういうことは継続して行えると考えています。

○武山監視情報課長 済みません。さっきのPAZ内に幾つあるかというのが分かりました。

PAZ内は、今、5個あります。

- 記者 別の非常用発電機は、正確に言うと何という発電機ですか。
- 村田事故対処室長 代替非常用発電機です。名前としてはそういうことになります。
- 記者 分かりました。ちなみにディーゼル用の燃料というのは7日間ですけれども、さらに今は追加して搬入とかというのはしているのですか。
- 村田事故対処室長 我々のほうから特別に指示をしているものではないのですが、発電所側のほうでそういうものを作っていただきたいと思います。済みません。そこは実際にやっているかどうかの把握は、我々はちょっとしていません。
- 記者 ありがとうございます。

○司会 ほか、御質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

○記者 共同通信のタケウチです。

済みません。電力側からどう聞いているかというところでなのですが、根本的なところで、外部電源喪失の理由については、電力側からどう説明をこちらでは受けて解釈されているのでしょうか。

- 村田事故対処室長 報道もされているかもしれませんが、火力発電所が緊急停止をしたことによって外部電源が落ちているという状況で、それに伴ってこちらのほうの外部電源も落ちていると聞いています。
- 記者 要するに、設備面で鉄塔が倒れたとか、開閉所が壊れたとか、そういうことはなくてということでしょうか。
- 村田事故対処室長 発電所のほうの中の設備については健全であることは確認していますので、外のほうの外部電源の喪失というところが理由かなと考えています。
- 記者 そういうケースで、要するに、物が壊れたわけではないけれども、外部電源で喪失するというケースというのは、そういうトラブル対応といいますか、審査の中で見るのか、そういう想定というのはあるようなものなのでしょうか。
- 古金谷安全規制管理官 先ほどちょっと別の方の御質問にもお答えしましたがけれども、具体的な外部電源喪失の理由をどう想定しているかということについては、恐らくこういう今回のような事象を具体的に示して外部電源喪失という話をしているわけではないと思います。あくまでも外部電源が喪失した場合、要は、外からの電源の供給がされないという状況において中でどう電源を確保するかということで、安全に停止させたりとか、そういった発電所の安全機能を維持するために必要な電源を確保するために、所内でどれぐらいの電源を確保すればいいかということは審査で見ていると思いますけれども、そういう意味では、外部電源喪失の具体的な想定事象までを我々のほうで審査の段階で見ているかというのと、そういうことではないと思います。
- 記者 もし分かればなのですが、こういう形での損傷ではない形での外部電源喪失が過去に何か例があったのかどうかは分かりますでしょうか。聞いたことがあるかどうかと

いうレベルかもしれない。

- 古金谷安全規制管理官 私の知る限り、記憶にはないです。申しわけないです。
- 記者 外部電源喪失の中でも、復旧というところでは、現に喪失してから6～7時間はたっているわけで、一定程度長期化していると思うのですけれども、復旧に関しては、何か定めたものとか、そういうものを見ているものはないのですか。
- 古金谷安全規制管理官 我々の見方としては、外部電源というものを復旧するというところで安全規制をしているというよりは、なくなったことを想定して必要な電源を中で確保しようという考え方で、非常用発電機とか、先ほどの代替の発電機というものを設けてもらっていますので、そういう意味で、外部電源の復旧というものについて、我々が何か想定している、あるいは審査で見ているというようなことは特にございませぬ。
- 記者 そういう関係で、今までを踏まえてかもしれないのですが、外部電源喪失といったときに、我々も含めて世の中はかなりびっくりしているのですけれども、でも、原発的には、内部電源、内部の緊急電源があるから大丈夫だという御説明になっていると思うのですが、その外部電源の位置づけといいますか、外部電源がなくても大丈夫だということにも思えるのが、その外部電源の重要性というものがどういうふうに見られているのかということなのですが。
- 古金谷安全規制管理官 外部電源の重要性。
- 記者 安全上、重要な設備にはなっていないのですね。
- 古金谷安全規制管理官 なっていないです。
- 記者 その考え方というのは、外部電源がなくても内部で確保することで安全を担保すると。
- 古金谷安全規制管理官 要するに、原子炉設置者として、外部電源というのは自分たちの権限の及ぶ範囲外になりますので、多くの電力会社は送電線も持っているかもしれませんが、自分たち原子炉設置者として責任を持って担える部分ということになると、やはりサイト内ということに多くはなると思いますので、そういう意味では、外部電源がある一定の信頼度を持って供給はされているけれども、なくなった場合ということも当然想定して、必要な電源を中で確保するという考え方で、今、発電所の設計なり電源の確保の考え方が成り立っているということになります。
- 記者 どういうお伺いの仕方したらあれか、関連なのですけれども、ちょっと長期化しているというところも踏まえてなののですが、今回の外部電源が震度2で外部電源喪失に至っていて、長期化もしているというところも踏まえて、今回、北海道電なのか、こういう規制体制なのか、どこか問題があったかとか、そういうことは現時点で、問題点については思うところはありませんでしょうか。
- 古金谷安全規制管理官 基本的に、この資料にも書いておりますけれども、非常用ディーゼル発電機の燃料は、7日間分は確保しているということですので、もう数時間外部電源がなくなっているということでも長期化しているということもあるとは思

うのですけれども、ただ、それに十分耐えられる燃料を所内で既に確保しております。さらに、もし足りなくなってくれば、追加で油を手配するというのも当然電力会社のほうでは考えていると思いますので、今回の、今、まだ停電が続いているということをもって、何か規制上の問題点があるかと言われると、特にそういうふうには今は考えてはございません。

○記者 道電としての対応も、今のところ、順調と言ってはあれですけれども、やるべき対策は手続にのっとってやっているという。

○古金谷安全規制管理官 はい。そういうふうを考えております。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 それでは、広報室長の関ですけれども、ちょっと補足の情報を2点申しあげます。

まず、外部電源喪失の事例というところですが、今、原子力情報公開ライブラリー、いわゆるニューシアというところで外部電源喪失の事例を拾ってみますと、過去にあったものとしては、2011年4月7日に東北電力の東通原子力発電所1号機、こちらのほうで外部電源喪失をしたという事例が検索としてはヒットいたします。事象の簡単な御説明をいたしますと、4月7日の23時32分に発生した地震に伴い、23時33分に外部からの電源供給が停止したということでございます。復旧については、4月8日、翌日の午前3時30分に復旧をしたという事例がございます。

そのほか、私の記憶では、4月に福島第一のほうで外部電源を喪失した事例もたしかあったような気がいたします。今、ひっかかるものと記憶の範囲ではそういうところが事例としては過去にございますというのが1点目でございます。

それから、2点目、基準地震動Ssについてという御質問がございましたけれども、これについては、御承知のとおり、泊の発電所については、今、審査中でございますので、私どもから言えるSsの数値はございません。

以上、2点、補足させていただきます。

引き続き、御質問のほうをお受けしたいと思います。

それでは、2週目でシゲタさん。

○記者 何度も済みません。シゲタです。

先ほど、PAZ内で5つあるという話があったと思うのですが、これは全部で5つなのか、停止しているのが5つなのか、確認させてください。

○武山監視情報課長 5つというのは、ポストはまず5つあるのですが、これは固定局、ちょっと待ってくださいね。5つのうち1個だけ、今、伝送されていないですね。

○記者 それはUPZ内の12局に含まれるのですか。それとも、また別に1個だけ停止しているのですか。

○武山監視情報課長 12局の中です。12局の中の1つがPAZの中にありますということです。

○記者 では、21の中の5つがPAZにあって、12の中の1が停止しているということ。

○武山監視情報課長　そういうことです。

○記者　分かりました。

あと、別なのですけれども、ちょっと規制と絡むかもしれないのですが、福島第一の事故の後、システムの強化とか、非常用発電機の強化というものが求められているところもあったと思うのですけれども、この3系統6回線とか、ディーゼル発電機6台というのは、これは強化された後なのか、前後関係が分かったら教えていただきたいのですけれども。

○古金谷安全規制管理官　泊につきましては、先ほど関のほうからも話がありましたけれども、現在審査中ということもありますので、まだこれが強化された新規制基準に適合したというものではありません。

○記者　そうなののですけれども、その震災後、事故後、事業者が強化して今の形になっているのか、それとも、もう震災前からこういった状況だったのか、その辺が分かったら教えていただきたいのですけれども。

○司会　広報室長の関ですけれども、非常用DGの6台については、規制基準の前から2台ずつ6台あったと認識しております。外部電源については、強化したかどうかは現在では私のほうも知り得ておりません。強化した結果、今のような状況になっているかというのは分かりません。

○武山監視情報課長　済みません。さっきのポストなのですけれども、1個駄目になっていたというのは、伝送されているので生きています。済みません。だから、全部PAZ内は生きていました。済みません。

○記者　つまり、12局というのは、PAZ外でUPZ内という、10キロから30キロの間ということ。

○武山監視情報課長　そうです。PAZ外でUPZ内ですね。そうです。

○記者　10から30の間にあるということですよ。

○武山監視情報課長　PAZの外のUPZの中が、12局が停止しているということですね。

○記者　分かりました。

長くなって済みません。

最後にもう1点だけお伺いしたいのですけれども、規制上、今回の事態というのは、つまり、外部電源を喪失してからどういうふうに動くかという観点に立てば、別に特に問題はなくて、今、基本的にほかで電力がスムーズに動いているという話だと認識はしているのですけれども、今回の事態を受けて、何か今後、規制に反映させる知見とか教訓になり得るのかどうか。その辺の感想、所感をお伺いしてもいいですか。

○古金谷安全規制管理官　現時点で何かというところと言うと、もう少しこの推移を見守らなければいけないと思いますので、そういった意味で、今、具体的にあるかと言われると、私も何も想定はしていませんけれども、今後の推移を見て、全体の事象、それから、それに対する事業者の対応といったものを踏まえて、教訓とすべきものがあれば、それは当然規制のほうに反映させていくということかと思うのですが、現時点で何か具

体的なものが考えられているかという、そういうわけではございません。

あと、先ほどの御質問で、福島事故後に強化されたかどうかということで、先ほど村田のほうから非常用の代替電源があるという話をしましたけれども、それは恐らく福島の事故後に導入したものと考えます。

○司会 それでは、タケオカさん。

○記者 共同通信のタケオカです。

ポストの数でもう一度確認させていただきたいのですけれども、先ほどPAZに5機あると言ったのは、このUPZ内の21局の内数ということでよろしいでしょうか。

○武山監視情報課長 そうです。21局の中の内数として5局がPAZ内にあるということです。

○記者 ですから、いわゆる0～5キロ圏に5機あって、5～30キロ圏に16機あると。

○武山監視情報課長 そういうことです。

○記者 このうち、故障している12局は、いずれも5～30の中にある16分の12個であって、PAZによる5機というのは全て生きています。

○武山監視情報課長 そうです。

○記者 分かりました。

それと、このUPZ外の水準局10局中9局が停止というのは、これも地震の影響と考えてよろしいのでしょうか。

○武山監視情報課長 そうだと思います。

○記者 分かりました。

それと、別件でもう一つ。先ほどの燃料プールの温度の御紹介がありましたけれども、これは各号機に、1号機、2号機、3号機にそれぞれ燃料プールがあって、それぞれの温度が22度から24度だという理解でよろしいのでしょうか。

○村田事故対処室長 冒頭で御説明したそれぞれのというのは、当然それぞれの1、2、3号機ごとのプールがあって、それぞれの温度を御紹介したということ。

○司会 ナカムラさん、どうぞ。

○記者 日本テレビのナカムラです。

モニタリングポストについて追加で伺いたいのですけれども、モニタリングポストは、私は規制庁が設置しているものと、自治体が設置しているものと、事業者が設置しているものなどがあると思っていたのですけれども、ここにある、北海道の泊にあるのは、今のところ、全部北海道が設置しているものということなのではないでしょうか。

○武山監視情報課長 今日御紹介したもので、固定局21局は北海道さん。それから、電子線量計も北海道さんですね。水準局が規制庁ということですね。

○記者 分かりました。

あと、これは一応故障ではなくて、先ほど御説明いただいたような仕組みで、手動に

よる起動が行われていないことによる、UPZ内は少なくともそういう原因だと見られているということですか。

○武山監視情報課長 まだ確定はされていないのですけれども、そうではないかと考えているところです。基本的に、電気が来ていないということのようなのでということです。

○記者 ありがとうございます。

○司会 カンダさん、どうぞ。

○記者 時事通信のカンダです。

先ほど御説明があった代替非常用発電機なのですけれども、これは旧保安院の緊急安全対策のときに、移動できる非常用の発電機車みたいなものを追加配備したという話があったと思うのですが、それに該当するものですか。それとも、何か常設のまた別のものですか。

○古金谷安全規制管理官 済みません。常設なのか、可搬なのか、現時点ではちょっと分かってはいないのですが、分かりますか。

○村田事故対処室長 私が先ほど御紹介したのは、代替非常用発電機というのは、これは常設の電源という形でやっています。先ほど言った福島の後には保安院のほうから指示が出て、電源を確保しろというので電源車を入れろということがあったと思いますので、多分、それを受けた形でのものではないかと思っています。

○記者 分かりました。

○司会 ほか、ございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、現時点の会見については、以上とさせていただきます。

今後ですけれども、また状況が変わりましたら、適宜まずはメールでお知らせをさせていただきたいと思います。また、会見等については、状況を見まして、開催をする場合については、またお知らせメールをさせていただいた上で開催させていただきたいと考えております。よろしくお願いたします。

それでは、以上をもちまして、会見を終了いたします。お疲れさまでした。

—了—